

平成 29 年 3 月 6 日

## 「麻痺性下眼瞼外反症に対する垂直眼輪筋弁翻転法」 の研究に関するお願いとお知らせ

顔面神経麻痺による下眼瞼外反症は、閉瞼不全による角結膜障害の原因となり、また眼瞼結膜が露出して見える問題があります。当院では顔面神経麻痺の慢性期で下眼瞼の弛緩、外反による乾燥性角結膜炎や流涙などの症状がある患者に対して、眼輪筋弁を利用して外反をより効果的に矯正する方法を行ってきました。

本研究では、2000年6月から2015年12月までの間、麻痺性下眼瞼外反症の手術を受けた患者さんの診療録を調査し、その治療効果について分析します。分析結果は学術雑誌に報告が予定されており、その際、一部の患者さんの目元の写真が掲載される予定ですが、該当する患者さんには、すでにご意向を確認しておりますので、その連絡がなかった患者さんについては単に記録の分析結果のみが掲載され、個人が特定される恐れはありません。

上記期間に当院で麻痺性下眼瞼外反症の手術を受けた方で、ご自身の診療録を調査対象にしないしてほしいというご希望が有れば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院における診療には全く影響はなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院 形成外科

担当者：東 隆一

TEL：04-2995-1211

内線：3692